

## タイトル：関西における戦後のニュータウン開発と現状

講師：瀬渡比呂志（関西文化学術研究都市推進機構常務理事）

司会：山口岩次郎

日時：11月15日（土）13：30～16：30

場所：大阪産業創造会館5階研修室C

参加者：24名

●今回はコメンテーターなしであったが、瀬渡さんの約2時間にも及ぶニュータウン開発、「なべかつ」そして人口減少時代のまちづくりとバンクーバーの事例、と盛り沢山の熱のこもった興味深い内容の講演であった。

### ●瀬渡さん講演内容

#### 1. URのニュータウン事業・・・平城ニュータウン

・URのニュータウン事業のスタートは、宅地造成部門として土地区画整理事業による新市街地の造成によるまちづくりと住宅建設部門への宅地供給であった。その後、URのニュータウン事業は、宅地造成部門から都市開発部門そして都市整備部門へと展開する中で、手法も新住宅市街地開発法などにより進められた。

・ニュータウンの計画においては、近隣住区理論と歩車分離が重要である。

・平城ニュータウン（平城・相楽NTの奈良側地区）

・・・349ha1970、区画整理事業認可、4住区で構成。

・比較的近隣住区が理論どおりに成立している（特に朱雀十区）。

・ニュータウン全体の地域を大事にしようという人が多い

・結構若い人も住んでいて活気も感じられる

#### 2. なべかつ

・奈良女子大正門前にある奈良県警の交番である「鍋屋」が役割を終えて閉鎖されていた。この交番を含んでの地域は奈良の「きたまち」と呼ばれている。

「きたまち」には、東大寺転害門、正倉院、聖武天皇陵、般若寺、奈良女子大学記念館など、古代・中世から近代・現代に至るまで1300年間にもわたる時間のなかで形成されてきた多種多様な文化遺産があることで知られている。また、大阪や京都との交流の結節点・出入口でもあり、商人や旅人が行きかい、旅館や「商店が立ち並び活気があふれていた。

・近年では、地元の生活に密着したまちおこし・まちづくりの活動も盛んな地域となってきた。

・このような背景から、地域の人々（自治会長、奈良女子大学の教員、この建物の保存・活用に興味を持つ市民ら）がこの交番を観光拠点や地域住民の活動拠点、大学のまちづくり等に関する研究・教育拠点などとして活用することを、思いたち、「鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまちづくりを考える会」（略称「なべかつ」）を立ち上げた。土地と建物は奈良市の所有として、当会との協働事業として、多くの方々の尽力により建物の修理・保存が実現したわけである。

- ・平成24年(2012年)7月1日、「旧鍋屋交番 きたまち案内所」として開所した建物は、この会がきたまちの案内所等として運営することになった。また、この建物の管理・運営とあわせて奈良きたまちの調査や奈良きたまちのよさを広く伝えていくための取り組みなど奈良きたまちに関する種々の取り組みを行っている。

### 3. 人口減少時代のまちづくり・・・外国を訪問して感じたこと

- ・都市の縮小、人口減少が進む。特に関西都市圏は先んじている
- ・地域マネジメントという考えが大事になってきている。米国などのB I Dの考え方を日本の大都市にも導入したらどうだろうか

### 4. 共通して

- ・・・今回の講演内容は多岐に渡り、まとめることは難しいが、瀬渡さんの今後のまちづくりのあり方への考えは以下のようにまとめられるのではなかろうか（当たり前のようなだが、実態はどうだろうか・・・）
- ・各地域や地区での、居住地をベースにして居住者・市民・専門家・事業者・行政などが、課題を整理し目標を設定して、合意を取り付けながら、気長に・地道に持続させていく、協働のまちづくりが要請されている。

### ●討論

省略

(文責：増永)